

L^AT_EX 復活 & そして MusixT_EX へ

いっぱん妻

Hello world! ようこそ T_EX の世界へ .

この文書は、L^AT_EX という組版システムで作成しました . フリーウェアなので、頑張れば、こ~んなきれいな文書を作成することが出来ます . 大きな特徴のひとつは、きれいな数式が出力できることです . 例として、物理で勉強した覚えのある次のような数式を書いてみます .

$$\omega\sqrt{\epsilon\mu} = \frac{2\pi}{\lambda} \quad (1)$$

$$\mathbf{F} = m\mathbf{a} \quad (2)$$

微分積分も当然きれいな出力が可能です . 単位面積あたりのガウスの法則を書いてみましょう .

$$\lim_{\delta v \rightarrow 0} \frac{1}{\delta v} \iint_{\delta s} \mathbf{E} \cdot d\mathbf{s} \equiv \operatorname{div} \mathbf{E} = \frac{\rho}{\epsilon_0} \quad (3)$$

どうでしょうか . 非常にきれいな数式でしょう . この品質を期待して、楽譜を T_EX で書こうときめたのです . 大学の卒業論文と修士論文は、すべて L^AT_EX で書きましたからねっ !

というのも、典礼聖歌集だけでは「アレルヤ唱・詠唱」が足りないのです . たとえば、先日の「ラテラン教会の献堂」の場合、年間の場合は奇数週と偶数週、終末週の旋律の 3 種類が考えられるのです ! 「毎日のミサ」には、音の変わる位置が・で示されていますが、これでは歌えない人も多いので、こうした楽譜を作ろうと思ったのです . もちろん、かつて T_EX を使ってきたからこそ、こんなことを考えるのかも知れませんが、Finale Notepad では作成できないような自由リズムの曲もきっと大丈夫なはずですよ . がんばるぞ .